

松前町 公文書検索30秒で

【松前】今年4月に施行された公文書管理法をふまえ、7月に松前町が導入宣言した文書ファイリングシステムの導入作業が着々と進んでいる。先行実施となる総務課など五つの課では、3カ月かけて公文書のキャビネットへの収納を完了、机上や職場はすっきりした。9月28日には道内の11自治体から20人が視察に訪れ、松前町の実践例を学んだ。

(恵本俊文)

「ファイリング」導入着々



前田一男町長(右)も「効果測定」に挑戦し、目標をクリアした

各地から視察も

ファイリングは、書けるのをやめ、書類をフォルダに挟んで分類し、使用頻度に応じてキャビネットに保管する。書類を簿冊方式で管理するオルタに挟んで分類し、職場ごとにキャビネットに保管する。担当者が不在でも書類

検索が容易となることから、一人あたり年間20万円の行財政改革効果が期待できるという。

施。どの職員も目標の30秒をクリアしていた。

この日、町役場では、文書名を読み上げ担当者以外の職員が文書をキャビネットから取り出す「効果測定」を実施させる予定。

視察に訪れた後志管内岩内町役場の猪口仁建設住課長は「4年後の役場庁舎移転新築に合わせ、何としてもファイリングシステム導入を、という思いを新たにしたい」と話していた。